



宮川夜話

一

ル 4  
1169  
1





宮川夜話叙

邑郡之有紀乘昉于班固地理志而世之稱該博者  
潛心焉得君王嘖美儕輩欽艷多矣

本邦之古各有風土記而令闕焉近歲坊刻五畿錄  
倉志等書亦昇平之餘慶信人文之粉黼哉陽田講  
古堂泰盛利著宮川夜話五卷需冠其首其為書也  
神世遺蹤至山海物產莫不輯錄不用迂怪奇僻採  
典故事實嗜好古之用心哉

明和戊子孟冬奧田士亨書于掃水三角亭中

僕生て常々癖あり人の言は初見の事ありとせば  
けいさき疎きは又つて是れ尋法とららひて  
物と蓋ありて直とてその言を却て  
よとて人言は是れたのひとては元  
とて書るもなき書とて是れとて  
さしに更とてまじけと剛のむと  
の聞ては忘るる我癖の得とて  
とちのきて是れ西川如見の  
とるをけいさきとて是れ  
は癖はとて一服の入はとて長崎の



凡例

一 此編は地理と要する編者小山川の形を考  
最初小宮川を記すはと神境咽喉の地なり凡ハ  
たてふは山田の地を考す一考す宇治  
領と記すは古き世にありて西北あり下瀬  
小川と記すは上古神地の幸境あり故に  
一 地理の故実を披一考すは山川巨石老樹と  
便とを載すは古き世にありて一考す宇治と  
と神峯山宮倉山百枝の松五百枝の松は数  
と文中に記す一條小宮川ありて西宮按内記

小儀より餘もけ例多し代々の撰集に載りし  
和歌の類は皆古書に譲りて歌より名所小記  
より又載りしに此より類も併付し〜  
其りき〜に旧名をき〜して此に  
栞に類之傳小儀より〜に難と云〜  
り〜

一 神社の類は他邦未嘗く容易ならず〜に按内記  
より〜に漢より夏より〜にては篇の引書神宮の  
旧記伊勢名所集日根送神凡山名寄神境紀淡  
の類に據り古老の口實と云〜

一 佛圖の類を神社と並べざるは此に今  
他國の名利と要し〜に威に輝く寺院の類に  
い〜して本殿の古名今も新と〜と慕ひき  
古本を〜と書〜に〜に類感同一書と附録と  
一 神祇家の類は事の類に皆神祇に限り他は比  
より〜に古も極意せられに旧例難信の類〜  
皆古も〜に〜に記〜

一 古物の類は〜に今に〜の〜に傳  
承は〜して中絶者の〜に記〜に或は劔指材  
書画の類他邦より秘藏〜に類に記〜に及〜

古墳の形も田原の傍に於ては古来の如  
實と比譬して記す

一 土産の類ハ他邦の産物と神祇の産物と混

同の類ハ其出所を正し古今貢納の物と

一 極寒と暑と又奇異雜詠と附録と

一 今頃多田未といふ者神祇の類と書集

一 今頃多田未といふ者神祇の類と書集

一 今頃多田未といふ者神祇の類と書集

一 今頃多田未といふ者神祇の類と書集

宮川夜話総目録

卷之一 山川類 三十四條

豊宮川 五十餘川

宇治橋 鏡石 皇女森

王孫池 猿橋 西行石

形波伊洞 荒木田 葛籠石

雨ッ池 貝坂山 尾上山

山田十二郷 豊宮崎 麻呂山

前山五鼓嶽 瀧波山 八束山

不動池 尾上川 岡本里

住持

文章

寺川橋

清盛楠

佛子洗

金石

袖引石系袖指石

藤岡山

佛贊板

井

卷之二 山川類

四十條

中川原

佛堂

館札

下馬指

西河原

河邊里

河原坂

大湊神社

二見浦

古垣殿

立石崎

淡菰

安養山

長盛田

江村系古松

蘇瓦社

伊氣浦

汐合

卜丁柑子

糸吉

雨機殿

多氣川

榎白川

下樋小川

留川

泉見並七見系菓

大湊

小那湊

村松岸

離宮

湯田埜

蛟那系吉古

有尔系土谷

國末山

野尻

多氣山所

澤地

鷲鷲石

伊勢地理

飛幡浦

卷之三 神社類

十三條

内外両宮  
相殿別宮表内  
鳥居

太子良儀表内  
僧尼拜所  
岩戸

常燈  
風玄指并葱卷月讀森

真玉森  
小朝熊鏡宮  
岡崎宮

松本社

佛園部 十八條

常明寺  
世義寺  
三寶院

光明寺  
善托山  
弘正寺

瀧樂舎  
不動堂  
蓮花寺

大江寺  
威勝寺  
慶光院

清雲院  
梅香寺  
朝熊岳

丸山  
青峯  
海録或同

卷之四 神祇部 八條

祭主家  
大吉司家  
神宮家

叙爵家  
異姓家  
玉串家

神巫大内人  
神筭作内人

故事部 三十五條

祭礼  
神遷宮  
神樂

奏事娘  
勅使祈奉  
古名代候家

神奉行  
神領  
神師

出口家神學 久志本家医道

守武神主佛借 新名新歌合 三角柏

藤波家故更 松本家故更 樽垣家故更

春本家故更 山本家故更 上野家故更

山田大路家故更 坂家故更 三口市家故更

岩淵家故更 坂家故更 榎倉家故更

三家信基印 ホウカ夕ノ 河原神更

追遠 トウヒ 石鏡

年寄三方 主従 石華假服

藏人

弄之五 古物類 十八條

冲政印 秘記 竹箆札記

行成河佛尺書 保元軍馬軸 光明寺殘編

平濟總録 世宝鸚鵡抄 旧家古文書

天國古刀 秀郷佩刀 義朝佩刀

杉ノ丸 清盛薙刀 信玄佩刀

朝霧古刀 平氏軍旗 澤深琴 附村邑

古墳類 七條

大五輪 和泉古部墓 結城八道墓

福原古馬助墓 秋田城古墓 二見古墳

面塚

土産類 五十種

附録

奇異雜話十餘條

總目錄 畢

宮川夜話 卷之一 目錄 山川之類

萱宮川

五十鈴川

宇治二郷

宇治橋

鏡石

皇女森

玉孫ヶ池

猿橋

西行石

越波河洲

荒木田

菅籠石

雨ヶ池

貝吹山

尾上山

山田十二郷

宇治橋

麻留山

赤山系鼓嶽

瀧波山

八束山

不動池

尾上川

高木里

傳橋

文庫

宇治系橋

清盛栢

竹子洗

金石

袖川の袖栢石

長岡山

沖贊栢

井足

宮川夜話仲春之一

豊宮川

此源を和州添下郡大基より五巴り測りて千不敷  
 條の石より下流に九二十里余下流に僅一里余  
 ありて二見浦大橋ありて酒濁の時に徒行して  
 海に洩れしありて漫水の時に水倍常より三丈  
 余りも高りて地程低き在田畑を浮きの利り取  
 く常山川上流の村里より数多此川に岩藪葉  
 葉りて此等の枝積下りて幸國田原の便となり  
 了川の東海に堤ありて長さ七百廿七間根張り四

十間馬踏凡一丈水も往昔は堤ちいさくして河  
水山田社市中小溪と一対ハ人亦も投捨し散在  
きし形も好し今川町中川系中島二俣西  
河原岩淵出の石自造りて上石は堤神境才一丈  
要害なりハ古治三年初て土宮と注わしハ大  
河内神社志登良神社と河水の守護神と知らせ  
たまふきハハ高代少多も人衆日く小さら  
ハは堤容易の備りてハ市中水碓の憂ひありま  
と東去小旗一帯も注評言りて上古の堤を今の  
より一帯方小築りたまふ物ハ正保元年甲

申八月廿八日の夜大洪水となりて堤敷百丈崩れ  
日三年再び修補なり多し一帯も水も安ん  
年康寛九月二日又を以元文六年辛酉七月廿二  
日と友波の洪水とて百餘丈破損とてと連  
し修補なり多しおのりて料敷千金貯り元  
とて守護不入の地なりハ毎夜小補の折角と山  
田社市中之り候りれとたのりて水の強あり  
ハ東去とて穿洞なりたて一割とたてて上古保  
王及び勅使奉向の時ハは川小取橋ありと大宮  
司とて勅とて形も神遷言の時とて両宮役所と

予取捨と架を以て宮川を以て志を了る石所ありて  
付つる古歌ありて川の原稿の或なりと西宮按内  
記諸書より見ると其の旧記より弘治三年丁巳八月廿  
六日永祿九年丙寅閏八月四日と其後の洪水は  
宮川の堤破損一人家流し人家溺死ありとありて  
予亦ふ川の洪水を以て其の百年後洪水一況平  
相國清盛公勅使として東向の射は川水神境に  
溢るるを憂ひて築きたまひて清盛堤と  
いふ名目今小宮川の東北畑の中よりありとあり  
まともはる國史神宮の旧記より其の記を以て後

今石所神を以て其の記を以て編述を以て神石帳考  
終再考清原井原神社の乗下小宮川を以て記して後  
人の考を俟とのなり

あふ記を以て大宮より東へ大和紀伊伊豫の三國  
小境へは能頂ふより方三里の陸路ありとあり  
標高は巴の園より吉野川熊野川宮川と別と  
て中廻り北野大杉山の曲谷へ臨み人形て又  
る人も希に古歌あり

吉野川との水とを尋ねるは

岸のまわりの萩の下つ田



丁と漏るは結経なり一は後継余りまゝの國と  
と経歴したるは此地を神都と云ふなりと文作  
るなりと作るなり

一説に神路山は古名の熱名とて高倉山は  
その名の別名なりといふありとの古語神  
路山とてその名の混してけりたるとされは上古  
古名も交まの言と稱と一説ひなまゝなり  
小五宮は同五十丁とあり今委一一計て是  
小外宮一と多指して由宮一と多指しりて  
宮小四十と丁ありて延喜或も七里とありと

六丁一里なりは今小かなり  
是は古の据なり平石板は延喜之年十一月内  
宮式箇長官の切句なり  
いふつて概々然りとひきあつて一と一と首を  
とり

宇治二郷

古書小治古名志呂宇治と記すを神代とすの考  
うて石身是記あり神都を小委一は地や高き山  
四方小園と谷とありてき地理なりは上古古人  
家も稀なりしり中古隣郷とて引移り漸新と

らへ今の市の中よりなりぬ二今ハ浦田岳田とい  
い又岩井田の今も館より所ありとも岩田の  
古名より一形を以て不附庵の村ハ○本郷  
その知古市の中り物産の○中村○楠部尾崎二村と  
多町よりつふまぬ町と  
○鹿海○新熊○一平田○松下○江村二村○  
三津○津々○山田原二村は未皆吉川とも内江  
宇治領なり候所内吉領より

宇治物産鳥居

五十餘川より架より格より一候宇治格より一善  
通の格より及より是より六十間度より四間中

の事さ之丈米格より格より格の丈材柱の事さ  
末はら入高より二丈五尺土入六尺冠木の事さ三  
丈あり候所格より一候所格神主白古より一  
候格ハ是より十餘下下流の中村等彼川より一  
所より及より格の都なりより一永亨三年是利候  
軍書光院義教公末宮の事今の如きは格と  
格と架とを

候格は新古今流河を宇治河東の四編ハ今中  
村具の森の西よりあり格二様生を今と里  
人宇治格より一候格の社あり一所ありと云







牛鬼を彩きし不中劔なりしは傳へ事と表すと  
しは怪談ふも牛舌ありしは梅返しなりし  
一 地名その牛鬼の経洞元よりつものうよ  
あり

西行卷

遠久のらら内膳より皆く富はありし新之令と  
神照よりし門前より一木の松あり

舌の戸よりししと松の年より

我のま友とすきうとあへり

け新ふよりし舌の戸は松より法入靈観より

頃日ハ枯らぬ又飽れしつゝ像あり高直は  
文覺の故事も伝へ後く安んずるも水の  
らん風雅よりしとと事して和歌連弁と傳へ  
今の若殿なりしものハ馬光後々の寄附なりし  
つゝは南上隣り御鬼ハ石真常院よりし志と  
高寺の所は一代文性よりし信密法も委しと書  
其のつゝもて慶長院の禪尼より傳へしと事安  
年中はとと建立ありしつゝ今世よりしと稱  
なりし地布院流よりし密法をけしと傳へしと元  
文中中肥後よま言信尋ひ事とととととと





うも明と云ふは八尺余横ニ丈半程有る古書  
又くも石所とありて古名曰く伊勢川土記と  
今該編は尾別産といはれ部古くははらり  
されハ元禄年中尾別領主宮内守小島飛之  
外宮と金石といふもの習ひては身同様に  
披し需とては法人好きて是とありて新つ  
くは彼を編しよとて身録りてありて  
若くは以上は不長峰と尾別町古く常葉林とす所  
ありて内一ツハを京印とす准てはあの新に諸  
圃の産色といふも綴りて十日芝林と云

そのうに下法ありて

### 雨池

唐海村の西に二箇の池ありて一は龍蛇の雌雄位  
て是ハ雄池西ハ雌池なりといふ常々満水溢れ  
深底より龍蛇とて下敷る所の堰うて農業の  
助とすなりといふなりとて和尾山といふ  
ハ古寺とて信坊と敷ありて一ハ中ハ一の小  
堂と親寺と安倉と僧侶も住たり雨池山和尾寺  
といふ事とてハ幡宮と主神と祀りてハ幡山といふ  
といふ事とてハ幡宮と主神と祀りてハ幡山といふ  
といふ事とてハ幡宮と主神と祀りてハ幡山といふ





山田十二郷

古歌うも山田う平村の村立と詠うう上  
古ハ樹木生ひ茂るなりしハ田島中ハ人家散  
在とすしうやそれと宗廟の正表地有るハ年月  
とてうも日くくもあへて今ハ十二の市中と  
たてぬ物山の内津大坂の里人そと山田知さ  
て伊勢とつへ至えとていへと両宮を領と  
つて是形く宮川の内外とも混して住居し形を  
山田の地既乾の寸くも築のうくへそく東西と  
際く南北と世く末穀ハ吾法在儀表に河ハ船

路をく炭薪ハ宮川と那々中くいも易く魚鱈  
ハ海濱をく用水と家くく井と穿て清泉水を  
千金の品物もくく自由と改ととつて形く末  
形へ三日江戸へと十日ハあつて國くくして姓さ  
ハあつて又高きさる國とやうく宮川内ハ正統後以  
末ニハ歳の今ハ守養不入の地なれハ正統云役  
と勤む事おく唯忌後觸穢の制と重く事とと  
他ハ是形そむくハ末の在屋の正統よりハ類  
者て享保のけりて奥の形ゆりハ振うと業ハ  
しうけりハ皆修くとも市場の存目あつてハ残



其神社之下十一ヶ村と流の五郷より。西村  
○庄村の今一色と名と二見の北と今と川と末  
と能と今と平治領と南と今と川と今と對と○久  
志本の神田は二石ハ河島小屋と平治領と云  
け類わたり又山方の村ハ○若山○移本原  
○左と山○五斗代○蓮島と各一石一色この外  
別名多ク言川の下段村ハ神領不著といふ中  
久志中存ト平治流の領地は其西條平治領の下  
より川より山田領と外言領ともいふ或曰  
山田川中より川に橋を架け流す明人

其地と云々腰古と記す、其れハ往古と云  
稱と一見明り形は川と事なりれと常影神  
主曰く是國ハ川流して河川と云々川と云  
於小川河と川と川と勅撰の和歌神宮の記録と云  
能事と云々川と川と川と川と通曰常中清  
圖書編日本國志曰紀伊西為伊勢北為三河と東  
為腰古為河乃好子

和名抄ハ流名取陽田と有テ山田ハ古一考訓  
相似と云々川と川と川と川と川と川と川と川と  
又湯田村と云々新ありと云々郡名違へり又里

佐方山田さんくく内くくハ神領之郡内  
くくハ沼多うやまくく三今内ノ澤くく中於赤小  
新くく

豊吉崎

羽河内錦の中川ありしハ流海東くくく西  
ハ宮山南ノ鼓岳湖波山つぐく流水流く西宮  
は鏝料と化し、大御田信長進田とつりけそ不  
降ノ屋と忌もの名形そ新ハ概り森とつりそ  
て礼せし王廢亡と一由田口社の田地ナクとい  
へく寛文の再興上流くくハ田能ふ今くく社取

ちくく

かぢく森の右義田鏡くく不解所鏡くく田くか  
ちり森ハ河内社森形そかそくハの切如  
くくくそふと略くくてちとくくく墨濁の例之  
森沼羽河内の森くくハ一而所そ

麻留山

概り森の南ハありそ形由新車ハ似くれくく  
車塚ともいへる所馬姓四門の祖大神主小事余  
を新皇田上太水社ハ新皇或内の神社形そ別ハ  
若はくく言ふと新くくくハ武外形そ昂ち小麦





古名より岩木町に属する石立五六年ありけり  
とて東に八幡山并雲山永代山尾り尾山なりとい  
ふに皆尾上坂経る者より西に上りて水はそけ  
山に一本の古松あり松の何れより年松といふ  
け道のりまよるなり

八束山

甲人申す山と申す世身寺の南なり或曰け山  
上素盞雄尊を祀りて号八束の發生ありとの事  
ありてけりありて今社名をなく古言よりなく  
と山の神を祀りて一山祠と名付けられたりといえ

うきうき

不動池

八束山の東にありけり池と淵と名けり古名に  
まじりて強池と名けりといふに其山に祈た  
たりて池の底に巨石とたれり如く氷床と  
いふ法彫刻の不動あり旱魃のときは不動龍と  
いふやと名を雨降るといふに佛家例の常陸水  
子

尾上川

一名古懸川又磐田川ともいふ磐を指す



は格す北と岳本町の小田と云貞観元年たのま  
は川下段きふと千原とけ格格うて架一と後  
奥の格ケ後奥ハ陣中子負と宗と西とてハ  
罪人と宗とてハ山具の神境とてハ桑根  
と載とて格とをてハ一後とてハ紡績の  
具ちと上と格材木とてハ千格とてハ何とて  
まては川下小竹とてハとてハと篋子格とい  
ひ一が今と格いあてはれとてハ格の衣  
ハ格とてハ篋子格とてハ又ハ篋川といは  
川運道の荷物とてハ水替と格と一例ありとてハ

とてハ

ありて後とて北とてハ一後とてハ小田とてハ古き地  
名とてハ千原の格とてハ水替川ハ尾上川の格  
語格とてハ尾上川ハ岳物運道とてハとてハ  
又尾上川ハ尾上山の麓にありてハ  
紡績の具とてハとてハ物とてハ小  
考ハ並とてハとてハ甲列の山居とてハ  
たてハ篋格とてハとてハ名とてハ  
大子良嗣記とてハ東好是等のとてハ

尾上里



新名新教舎の一好まは所末ハ前山山小田西  
ハ高倉山の長二丁洋も高出今の若戸坂小連  
一々寛永十七年九月は高倉若戸志摩志らと  
切用きたまひし一々外言一々高倉も内言性  
東のま〜好〜便を得〜ま〜若ハ外言一々  
高倉〜好〜下丁の格と〜若戸小  
出〜若戸の才逢小出〜今お〜ま  
一々高倉も切用〜而と切切所〜山の  
腰〜好〜若戸石修あり〜高神  
招〜替女々招〜一々高倉ものま〜替



女高〜好〜好まは所末ハ前山山小田西  
一々高倉山の長二丁洋も高出今の若戸坂小連  
一々寛永十七年九月は高倉若戸志摩志らと  
切用きたまひし一々外言一々高倉も内言性  
東のま〜好〜便を得〜ま〜若ハ外言一々  
高倉〜好〜下丁の格と〜若戸小  
出〜若戸の才逢小出〜今お〜ま  
一々高倉も切用〜而と切切所〜山の  
腰〜好〜若戸石修あり〜高神  
招〜替女々招〜一々高倉ものま〜替

結稿

和石歌小高倉歌結稿〜好〜一々高倉も内言性  
東のま〜好〜便を得〜ま〜若ハ外言一々  
高倉〜好〜下丁の格と〜若戸小  
出〜若戸の才逢小出〜今お〜ま  
一々高倉も切用〜而と切切所〜山の  
腰〜好〜若戸石修あり〜高神  
招〜替女々招〜一々高倉ものま〜替



多と信物花格... 勅使の村叙舞... 御正役を勅... 例... 市中小水辺... 信... 今... 之... 一...

信勝と城切... 一き方角...

文庫

外宮祠官等学校... 了き... 南面... 川... 我... 伯...

撰下し揚ぐん四千部と及へて神藏家ありしは  
他國志性のくしひしとて益と撰し講師と建る  
を以室直清具系篤信伊長胤石重をて介宗也  
ははへあゝくしとて書一法を定むるはし  
をよりつて撰新とてしりた文庫人数あり  
されしとて原きあゝくし講師とてて破産とてな  
しとては文庫落城のしとて神倉延佳神との屋上ふ  
一の撰の苗とてまてり市ち延佳言ふ撰して書せ  
らとてしとて年と撰落しとてさこ二文圃五人余と撰系  
傘蓋のふしとて花形号してて天りしとては法入

文庫の屋上撰し稱して書親とて神と延佳神と  
はは造立の棟梁なりしとて屋上ふはく花本と生  
とて年ふあゝくしとて書一とて法天とてその文と  
形りしとてまゝとて母文本の撰なりしとてりしとてやあり  
ゆゑに法也なりしとて撰しとて神降山の形も撰しと  
なりしとて作きとてりしとて法天りしとて本但列君と  
臨しとて撰しとて末代修補の料とてて書此市石と  
書法なりしとてとて考証き

撰し百年の春秋とてしとて書なりしとて撰しとて百餘  
年と撰しとてはの屋上撰しとて終る撰しとて撰しとて撰し

まゝ藤とまゝを宇法林等の文彦外宮神座の  
まゝは此後のまゝに按因能よりまゝ

幸川系二摺

田能のまゝに幸川を祀る外宮幸川へま  
まゝありまゝに清流なりまゝに八折の如き  
濁るまゝに言物の地を流るのまゝに中へ進むと東  
北に摺あり東を一し多岐に西と北は門に或る  
地まゝに摺ありまゝに此摺の樹に神依古法  
の地まゝに祀るまゝに制れありまゝに河に流るまゝに北は  
門摺の西に石垣をさし十回余高きありまゝに

幅より余ありまゝに景長四年木坂の言中朝日殿とい  
ひに女性に宮中の性まゝにまゝに透るまゝに  
幸川ありまゝに古能よりまゝに一説古田飛騨守  
殿幸川ありまゝに石垣東の摺小兜石と云  
ふまゝに石ありまゝに伝説の産家まゝに射は石の  
まゝに尋子なりまゝにまゝに人皆まゝにまゝに  
留長長女袖達まゝに石ありまゝに教へまゝに  
まゝに古にまゝに出陣の神前を祀るまゝに  
石を折る樹ありまゝに昇年の祭ありまゝに  
新にまゝにまゝに石垣ありまゝに東

此土より安年中常晨長友の築り其より  
大の二格に先よりありとも一より香居に延宝  
二年北は門を寛文四年京都山形山村吉右衛  
門よりあ人の寄附形を以て吉右衛門より神祇の  
寄附より又再いり形より其より男子孫男の  
より時番より納米龍式より門前より杉節より物  
より他のより貸貸より長長より一より百家よりなりぬ  
よりつて神馬を謝よりまよりたより以て格料より一  
より香居にハ下より北は門のハ言後町の役所より謝  
より一田地より一兄弟より一此收納と積を造り修

浦の体よりなりとも一より也格名利よりなり  
神社寺堂より寄附となり一將來の冥福と祈り新  
元より山形に不意の身命を保ち己供の神馬  
を謝より一より一

大田花孫より後家より一より一蒲生花孫より  
後高田より一より一住ありより一より一  
福より一より一されより一より一  
言中の殿舎より一より一格料の類より一より一  
より高家創業の時再具の申状より一より一其  
此のく質より一より一

子良館のうきまの南村造管修補の及りしと  
主将へ小裁のうきと神をいひて今小管と降  
し北古門社の石燈のうき上杉侯の寄附し  
今上武年とたうしは師倉田系と系しと執  
事の造立しと例へ

清盛楠

希ふま一し多長松の例形大樹形も小松内府  
重盛公勅使ししと東向の村冠のまりしと  
西へま一したと松と快ししと四部の方しと里佐  
清盛公しとあやまて侍りしとまうしと勅使しと

清盛公しと後重盛公一役東向ありしと勅使勅款  
又例文も又へたり

神子洗

那宮子洗場を以てて山流きて用ひしと自給し  
怪し今子洗神の素山君の寄附しと付言中し  
おわて幸堂の等しきとの言し不可解し且截不  
と用ひしと変古法と背しと神宮しと堅くい  
なりと神子しとしと終しと権柄と素山君はは  
編し能し如く神志母二の所寄附しと権威と  
しつて古法と破りたましとありは是しと西





おく山よりうらひ花咲くは信令要州細谷府の  
赤いあゝ金花山なるはと云彼金石を何勢  
小吉納したまふつゝつひに竹つゝはきりては  
石なりつゝ又黄金のうらまをすやうや計り  
つゝつゝと福をくをひきけは神座なるは  
若くはふをきりて云

袖引石袖指石

第一日一石借し何れ袖引石の上の限りてか  
くく牙十二西くく二ツ目凸はあきまき袖  
指石は右の如く才十七西くく四ツ目四くく赤

五小形も延身神を益弘神との事記ふは  
そまれと生留まらぬ

一説に常呂長友はあまを昇てくひに  
そまれと生留まらぬ

藤園山

按月記小吉くく事林上は井社と稱す塔は  
く井くく形々の石熊は水と目ゆくく  
一二抄をゆつゝのくくは  
は井水を用らくくは事味を汲ひて毎月  
太日の外は常山くくくく人の命を



畧濁していふも余考はくと活していふがと云  
今在哉小日向神氏ありは是係とありつ小日向  
井のたがいにさうはありと

中贄概

北は門の中は東平河此の岸より清くはと秋は  
魚類所業まゝ穀の類ともけ概は清くはと  
其宜さへ秋はと中贄も秋はあり上古は厨は園  
は秋送しとその水も茶と云は贄は荷上とて  
秋はとせとせは清くは秋の進秋もあはれ  
荷前の秋と秋そのさばは荷はあり上と日

概は荷ありとつとつと創は是へて神は秋は  
そのは子種とつと天下最上の室は穀食は  
因て是年の秋はとあるは秋はと秋はと  
又は即は是年の秋はと天子ははつと大  
小の神はとありせりつと大書はとつと其料と  
衣秋はと化と出と國所とと秋はとありつと  
國はと定の命とつと其は皆子種の根元之と代  
其はと秋はと清くはと秋十五文とありと  
事の終とつと神は武具刀海の類は是納と云  
又最花とつと創はと其初はと花と秋は

ふれと神前小庭と秋とこれ例ハ足  
つと

井芝

前ハ玄振り森の西ハ何モ井谷又井垂ト書モ  
古名の清家トテ正保安の頃トテハ徳永の  
者トテ暑と凄き又薬用ト驗出テトセ人トテ  
トヤキト寒水ナリキツツト埋テ知ト稀  
トト我享保八年夏迄トト東西九ニ丈南北一丈  
全水中ト伝ト籜石トツツト石面ト板トツツト  
文字ト何トト秋トト水暑中ハ冷トナト夏ト

足刺トツツト磐トト堀ハ池トハ却テ温泉ト  
トト頭白ハ又トツツトトナト



